

『自分の考え』と『個性』(教育コラム)

小さい頃から「自分の考えを持ちなさい」「個性は大事」と周りから言われてきました。皆さんも同じようなことを親や学校の先生から言われませんでしたか？正直者の私は自分の考えを持つようになり、個性を大切にしてきました。そして、自分の考えを持つだけでなく、主張するようにもなりました。これが小さい頃、年齢的には就学前から小学校4年生位までは結構周りから「偉いね～、自分の考えが言えて」と褒められていたように記憶しています。しかし、小学校の高学年以降は何故か自分の考えを言う、何とも言えない空気になってしまうこともチラホラ。もちろん、小学生ですから、身勝手に我儘な主張をしていたのかもしれませんが、それでも、自分の考えを持って、いま風に言うと空気が読めない主張をさすがにいつもいつもは出来ませんでした。懲りもせず時にはしていた青年期を私は過ごすこととなりました。

少し変わった子どもだったと自分でも思いますが、中学生か高校生の頃、夏目漱石の『草枕』の冒頭「山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に掉させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかくに人の世

は住みにくい・・・」を学んだ時、そう言うことかと長年つかえていた何か、スッと理解出来たように感じました。自分の考えを持つことは大切だけど、いつでもどんな状況でもその考えを主張することは、大人の社会では通用しないんだと、当時千円札の肖像になっていた漱石先生から教わりました。そうは言っても、持って生まれた性格なのか、単なる意固地なのかは分かりませんが、始めに書いたように自分の考えを持つこと自体を辞めることはしませんでした。私の性格を知っている方もいるかも知れませんが、頑固な性格が根底にあるように思います。

それから時は経って大学時代、実家の鳥取県を離れ大阪で 1 人暮らしを始めると、自分の考え方で自由に過ごすことが出来る環境になりました。大学 4 年間、自由を与えてくれた両親には本当に感謝しています。大学では周りも個性的な同級生が多かったと思いますし、それ以上に超個性的な先輩や先生方との 4 年間は刺激的な毎日でした。しかし、社会人になるとさっきも出て来た、所謂空気が読めない発言を繰り返していると、上手くやれないことも学びました。と同時に、自分の人生なんだから自分の思うように生きないと、後悔してしまうかもと言う感情も常にありました。

何かグダグダとああでもないこうでもない書き連ねていますが、要するにそれだけ『自分の考えを持つ』と言うことは、今も昔も取り分けこの日本という国では難しいとことだと改めて思います。ましてや自分の考えのもと、大げさに言うと人生を選択していくことは、本当に難しいとことだと思えます。周りに嫌われたくない、友人と仲良くしたい、親から認めてもらいたい。様々な感情が本当の自分を押し殺しているのかも知れません。私自身のすぐに思い出せる経験の中でも、高校時代のラグビー部の同級生との意見の食い違いによる激しい論争。大学の同じくラグビー部で4年次にキャプテンとして、必死にチームの勝利のためと思いついた持論。就職時に親の意見を受け入れなかったこと。そして、転職時にも自分の意見を押し切ったことなど、実際にはまだまだ一杯あったと思えますが、自分の考え方を主張して角が立ったり、ずっとではなかったものの、しばらくの間は友人や親とも険悪な期間を過ごした経験は今思い出しても、何か胸の辺りがゾワゾワする感覚で気持ちが悪いです。

話を戻して、そんな中私たち大人は子どもに対して「自分の考えを持ちなさい」と言っていると認識しないといけないのかなあ～と思えます。

具体的かつ典型的なのが「将来（職業として）何になりたいの？」や「（何か）夢を持ちなさい！」のような、一見親として当たり前のような言葉です。自分の考えが周りとは少し違ったり、所謂常識的でなかったりすると、我儘な奴と周りからは見られ、本当の自分を出すことが出来なくなってしまいます。自分の考えを持つことと、我儘になることは違いますが、子どもが周りの同調圧力を気にせず、自分の考えをきちんと持ち、自分らしく生きて行くためには、側にいる親が周りに流されずに、難しい選択をしようとしているわが子を認めてあげる必要があると思います。偉そうなことを書きましたが、自分自身得てして一番最初に書いたように、親として自分に自分の考えを持ちなさいと言っておきながら、自分（親）と違う考えだった時に、それは常識的ではないからとか、子どもの浅い考えだからと軽くあしらったりしないようにと自戒も込めて書いています。つい先日、台湾の最年少デジタル担当大臣のオードリー・タンの著書『自由への手紙』を読んだ際も、自分の子どもへの接し方は大丈夫なのかと反省しました。実際、周りの空気を読む、聞き分けの良いお利口な子には自分の考えがあっても言わなかったり、分からないと言ってしまい、個性を発揮出来ない大人になってしまうように感じます。聞き分けが良く、お利口な性格は子育てしていく過程ではとってやり易く、親としては助かる一方、自己主

張の出来ない周りに流される性格になってしまう可能性があるとも感じます。個性を発揮して周りとは違う行動をとると、協調性がないと言われてしまうことがあります。真の協調性とはお互いの個性を認め合い緩い連帯の元、協力してそれぞれが強みを変な遠慮なく発揮出来る状態だと思います。個人（個性）の集まりが集団であって、集団の中に埋もれるために個人があるのではなく、ましてや協調性と言うもっともらしい言葉で、自分の考えを持ったり個性を発揮する機会を奪ってはいけないなあ〜と、少し哲学的になってしまいましたが、このコロナ禍では特に感じたので何度も繰り返しますが自戒も込めて書きました。

ちなみに、わが家には長男が生まれてからなので、かれこれ十数年テレビがありません。会社の人や友人に話の流れの中でそのことを話すと、大きく2通りの応えが返ってきます。どちらが正解とか不正解とかはもちろんないのですが、この人は個性を大切にしている人だなあと感じる反応をされる方とは、個人的に馬が合います。以前、教育コラムの一環で同封させていただいたビル・ゲイツが高校生に語ったスピーチの『学校では教えられない11のルール』（参考のため再度同封いたします。）のルール⑪

を思い出します。ずっと以前から言われていますが、益々これからは個性
が大切になってくると個人的に思います。他人の個性を認め、自粛警察の
ような同調圧力に左右されず、自分の個性を発揮できる子に育て欲しい
と2021年5月、コロナ禍でのささやかな自己主張でした。

本社登録不要

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟